

## 第 5 回気仙沼市東日本大震災遺構検討会議について（開催報告）

### 1 開催概要

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木） 午後 3 時～午後 5 時 15 分

場 所：気仙沼市役所 ワンテン庁舎大ホール

出席委員：11 名（委員 12 名中）

### 2 説明内容

＜災害遺構視察と前回協議事項のまとめ＞

①前回の検討会議の主な意見（資料 1）

②保存整備・公開活用の基本方針（資料 2）

③検討のための展開案（資料 3）

④防災・減災教育プログラムの考え方、展開イメージ（資料 4）

＜入館者数・事業収入、地域における役割・連携等＞

⑤入館者数予測・事業収入予測（資料 5）

⑥地域における拠点・施設の役割・連携案（資料 6）

### 3 意見交換内容

【委員から出された主な意見】

＜②保存整備・公開活用の基本方針について＞

- 市内外の広域的な視点での施設の役割も明記されたい。また、保存整備については見学者の安全性や避難対策が加えた方がよいほか、バリアフリー対応の是非についても検討されたい。
- 東北および気仙沼の地域限定的な記載だけでなく、全国の防災・減災教育に資する施設とする文章を加えることを検討されたい。

＜③検討のための展開案について＞

- 4 案の提示がされているが、「遺構の中に入れること」や「できるだけ遺すこと」の委員の同意事項を踏まえて、案を絞り込むことを検討されたい。
- 遺構部分は一度解体してしまうと二度と作ることができないことを十分に考慮されたい。
- 活用の事業スケジュールと施設の運営体制について、考え方を詰めていかないと事業の具体化が進まない。
- 「遺構を遺すこと」「遺構全体をできるだけ遺す」「南校舎の 3F・4F・屋上を公開する」等、委員の共通認識を抽出して示してほしい。

＜④防災・減災教育プログラムの考え方、展開イメージについて＞

- 展開イメージでは、修学旅行の規模を 100 名相当で 2 班分けを考えているが、実際は、3 クラスを 2 班に分けることが難しいケースや 200 名以上の規模で来るケースも多いの

で、現実に即した検討が必要である。また、100名規模に対し語り部を10名必要とする  
と語り部が揃えられるかも課題となる。

- 100人規模の受入も無理があるとすれば、同施設だけで修学旅行の受入は不可能と考え  
た方が現実的である。その場合、周辺の施設（リアスアーク美術館等）との連携による  
団体の振り分けが必要である。

<⑥地域における拠点・施設の役割・連携案について>

- みちのくトレイルの階上地区のルートが作られているので整備イメージに追記するほ  
か、地元で構想している地場製品の提供や観光農園との連携についても検討されたい。  
また、市内の震災スポットを回遊するコースの設定も必要と考える。
- 震災・港文化の展示では現在のリアスアーク美術館でカバーできてしまう内容である。  
防災・減災教育の普及まで踏み込んだ展開が必要である。
- 修学旅行、教育視察は同じ頃に集中することがあり、運営を回すとなると施設だけ  
なく、関連団体の連携はとても大事である。複数施設で時間分けをするなどのバリエー  
ションを示せればと思う。

以上